

2023 年度 JCulP Summer Session アンケート結果

2023 年度に参加した学生からのアンケートの結果を掲載していますので、参考までにご覧ください。

なお、2017～2023 年度のアンケート結果は文化構想学部のウェブサイトよりご覧いただけます。

「早稲田大学文化構想学部」を Web 検索 ⇒ Topics トピックス

⇒ Global Studies in Japanese Cultures Program (JCulP: 国際日本文化論プログラム)

⇒ Summer Session)

<SOAS, University of London>

Summer Session の手続き方法（早稲田大学・留学先）について、気になった点などをご記入ください。

- 基本的に自分達で手続きをしなければならないのに対し、他の大学はいろいろな手続きをしてもらっていたのはやや気になった。自分で動く力は身についたが不安はかなりあった。
- 寮の予約や学費納入など、インターネット上においても電話においても手続きの際に現地大学との連絡を取るのが非常に難しかった。基本個人で手続きを行う必要があったが、エラーの発生等で円滑に行うことができなかった。寮の予約は、大学側がまとめてやっていただけるとよかった（エラー発生で手間と時間がかかったため）
- 寮の手続きが最後まで終わらなくて苦労したと思う。
- Summer session の手続きは必須でありながらもほとんど各自で行う必要があるため、計画的に準備する必要があるなど感じました。特に寮の予約サイトのエラーにより、空きがあるのに関わらず予約することができないという事態が今回発生したためとても大変でした。また海外のサイトを通じてプログラムの費用、航空券など全て自分で支払う必要がありますが、日本のカードではセキュリティブロックがかかってしまいスムーズに支払いすることができないということもあったため、時間に余裕をもって手続きを進める必要があると思いました。
- 留学先の宿泊先のトラブルがあったり、連絡が遅かったりする。
- 早稲田の留学センターの方とやり取りしながら、留学先の大学の手続きを進めていく形になるのでリストに載っている大学先を選ぶと手続き方法は簡単になります。SOAS 大学はコースも値段も見やすかったのですが、他の大学は少し複雑なシステムでした。しかし、留学センターの方がアシストしてくれるのは大学のサマーセッションの申し込みだけで、寮や航空券の手配はしてくれませんが、航空券は安いものを選べる権利がこちらにあるのでありがたいですが、日程が近くなってしまうとやはり値段が高くなってしまいますので、リマインドが欲しかったです。
- SOAS 側の Student Registration のシステムは複雑でエラーも多いのでその点は少し大変でした。早稲田大学との手続きは特に問題はなく、とてもスムーズでした。
- SOAS の寮の手続きが全員うまくいかず、直前まで寮の確保ができなかったこと。大学側に質問や手続きのエラーが出た時の対応が遅いこと。
- 大学側から提案していただいた中から留学先を決め実際に現地の大学のプログラムの手続きを行うところまでは、留学センターの方々のサポートのおかげで順調に進めることができていました。しかし、現地の大学の申し込みが完了し個人情報の登録や学生寮の手続きなど、オンラインのシステムエラーなどが多々あり、不安を感じることもありました。そんなときも留学センターの担当者の方が親身に相談に乗ってくださり、現地と繋がってくださったおかげで、無事に手続きを終えることが出来ました。
- （個人申請ではなく）早稲田大学側の提供プログラムということで、プログラム申請や航空券の手配を大学側に一任できるものと思っていたので個人で全て手配しなければいけないことに戸惑いました。ロンドン大学の寮のホームページが不具合を起こしており、そこから予約ができなかったため現地に電話をかけて交渉しなければいけませんでした。その他ロンドン大学の手続きに関する質問メールを送っても返信が 1 週間以上空くなど、現地の予約システムに不安を覚えることが多かったです。早稲田大学側が唯一必須で手続きを求めた SIM カードこそ個人で手配したかったです。わざわざ高い業者の SIM カードを買わなくても Amazon や現地 SIM の方が断然安く買えるかと思いました。留学センターの長谷川様には今回ロンドン大学に留学した JCulP 生全員がお世話になりました。いつも段階を踏んで手続きの進行状況を確認していただき、トラブルが起こるとすぐに解決に尽力してくださいました。
- 特になし
- ネット上の寮の手続きがスムーズにやりにくかったです。

当該大学・プログラムを希望した理由をご記入ください。

- ・ ロンドンという地に行きたかったこととプログラムの内容が一番詳しく記載されていたためなんの授業を取れるのかわかり面白そうと感じたから。
- ・ 自分の学力に最も適しているレベルだと思ったから。安全性。
- ・ 納得のいく値段だったから、そしてイギリスに行ったことがないから
- ・ 特に Block1 の Art of the world in London を受講したかったためです。実際にロンドン市内の美術館にいける機会はとても貴重であり、日本文化を学んでいる身として他国の文化や芸術を現地で感じ、学びたいという動機がありました。また、SOAS（ロンドン大学東洋アフリカ研究学院）はロンドンの中心地にあるため、大学内での学びに留まらず、様々な地を留学期間に訪れることができる点もとても魅力的でした。
- ・ 当大学のプログラムを説明する web ページがわかりやすくなっていて、授業もわかりやすかったため、自分の興味のあるアートやリテラチャーの教科が目に入り、希望した。
- ・ アメリカに留学していたので、英語を使う他の国に行きたいと思い、ロンドンを留学先に決めました。また、サマーコースとして設置されていた世界文学やメディアは私の研究テーマと繋がるので、海外の視点で学びたいと感じたため、SOAS 大学に決めました。
- ・ 文学や音楽、彫刻や舞台芸術など美術全般が大好きで、数多くの美術館やオペラハウスのあるロンドンを選びました。それに付随して授業内容もアートとリトルチャーを選びました。
- ・ ビジネスが学びたかったことと、狭い範囲に無料で入れる美術館や観光地がたくさんあったので勉強と同時に様々なものが体験できること。
- ・ ロンドンの中心部に位置しているということもあり、短期間で様々な経験をしたかった私にとって SOAS 大学は大変魅力的に感じていました。プログラムに Art of the world in London というクラスがあり、奥深い歴史のある芸術をロンドン本場で学びたい！と強く思い、最終的に SOAS 大学に決めました。英語のスキルを学ぶことはもちろん、英語を使って自分の興味関心ごとを学ぶことができる環境だったということが一番の理由です。
- ・ ロンドンには様々な美術館や歴史的建造物が多く、それらを 6 週間かけてじっくりと学んでいきたかったから。
私自身がアメリカ英語を話すので、イギリス英語に長期間触れる機会がほしかったから。
ロンドン大学は立地的にもロンドン中心部に近く、放課後も効率的にロンドン内を探索できると思ったから。
ロンドン大学には実際に美術館を訪れながら美術を学ぶことができるコースがあり、それを受講したかったから。
- ・ ロンドンの大学に行きたいと思った
- ・ アートについて学べるコースがあったから。

Summer Session を終えての感想をご記入ください。

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 授業のレベルは英語力のみに関していうなら JCulP の授業と比べるとそこまで難しいとは感じなかった。ただあくまで大学で自分の専門分野ではないためわからない部分が多かった。英語力を伸ばしたいという意味ではあまりお勧めできない。理由は日本人の多さだ。例年日本人自体はいるが今年は特に多く、15/16 人や 16/16 人日本人だった為外国人の友達や英語を授業外で話す機会が極端に少ないと感じた。課外活動でバービーの映画を見たり、実際ドキュメンタリーを撮ったりする体験はとてもよかったと感じている。
- ・ Art of the World と World Literature の授業を取りました。内容としては、あらゆる芸術作品の技法や画家を分析し美術館鑑賞を通して理解を深める、そして世界的に有名な文学作品を読んで現代における文学の意義・重要性を考えるというものでした。レベルは、単語は難しくとも内容は教授が分かりやすく説明してくれるのでそこまで難しくはありませんでした。ディスカッションやプレゼンテーションをする機会がたくさんあるので、理解度を高めながら自分の意見を明確にし、それを言葉で伝える練習ができてとても良かったです。ただクラスメイトのほとんどが日本人(大半が JCulP)で、他クラスの生徒あるいは現地の生徒と関われる機会が少なく非常に残念でした。
- ・ ビジネスについて学び、授業のレベルは JCulP よりは難易度があるが課題とかは楽しく楽だった。クラスのほとんどがアジア人でネイティブの生徒がいなかった。
- ・ Block1 では Art of the world in London、Block2 では Environment, development and changing world views を受講しましたが、どちらも Jculp に比べると授業レベルは少し低いと感じました。どちらの授業でも専門的な知識を扱うため専門的な英語での語彙は必要とされますが、教授が簡単な英語でも説明して下さるため、その度に学習していけば全く問題はないと思います。フィールドワークが多く用意されていたため、座学だけではなく実際に体験する機会が多くとても楽しめました。クラスメイト構成は 10-15 人程度で、日本人が 7-8 割程度でした。積極的に英語を話す姿勢がないと、日本語で会話してしまうくらい日本人が多かったです。

- ・ 授業内容としては結構難しいかもしれない内容ではあったが、本当にそれに興味があれば十分楽しく思える難易度で、自分の専攻が学んでる内容と結構違っていても、補助してくれる先生が常に英単語や内容の専門的な部分を説明してくれたので、内容理解は大丈夫だった。クラスメイトはそんなに多くなく、少人数という感じだったため、個人的には話しやすい環境で良かったと感じた。主に授業はディスカッションや発表、フィールドワークだったため、読み書きの授業や宿題も少なかったため、硬い授業を受けているという感じよりは、楽しく参加しているという感じで、ストレスは少なかった。
- ・ 授業内容は JCulP よりも少し優しいくらいで、時々教授が使う専門用語が理解できないこともありますが、基本的に日本人が大多数を占めるクラスなので、皆の理解度は同じくらいです。課題はほぼないといっても過言ではありません。ファイルプレゼンがあるので、コースの3周目はちょっと忙しいかもしれませんが。基本的には10人前後の少人数クラスなので、発言も質問もしやすい雰囲気です。Block2のWorld literatureは早稲田のJCulPerが大多数を占めており、ICUの生徒もいたので英語のレベルと生徒の理解度は非常に高い印象を受けました。一方でBlock3のIntroduction to Mediaは日本人しかいませんでしたが、明治や上智やお茶の水女子大、東京外国語大学が来ていて、学部や専攻も様々であり、英語を日本の大学の授業で専攻している方は少なかったために、英語のレベルは低かったです。授業内容はハリウッド映画やBBC、民放を扱うので、日本の状況と比較出来て非常に面白いですし、ファイルプレゼンテーションがドキュメンタリー（インタビュー）動画づくりなので、刺激的です。海外の留学生の友達も数人出来て放課後に遊ぶ仲にはなりましたが、人数自体多くないので、海外の友達を作りたい方にはSOAS大学はおすすめしません。しかし、日本人が多いので寮は安心ですし、言葉に詰まることなく観光を楽しめるのは利点だと思います。
- ・ クラスメイトの構成はほとんど日本人でした。授業レベルは特に難しくはなかったです。Artの授業は課外活動として多くの美術館に行きますが、Literatureはほとんど行きません。
- ・ Businessのコースは英語のレベルはJCulPほどは高くない。授業内容も初級レベルだったので簡単に学べた。クラスメイトは9人クラスで5人日本人、2人韓国人、1人ブラジル人、1人サウジアラビア人で基本クラスでは英語を使っていた。しかしEnvironmentのコースは専門的な用語がたくさん出てきてやや難しい。そして先生がスライドを使わないので一時間の講座を聞いてメモを取らないといけなかった。13人中12人が日本人で、授業でも基本英語で話していたが、日本語も6：4ぐらいの割合で使っていた。両方のコースに共通して教授はすごく優しくかった。
- ・ Block1と2があり、私はアートの授業と英語の授業を取りました。まずアートの授業では、3週間かけて芸術の奥深い歴史について学びました。2日に1回の頻度でロンドンにあるたくさんの美術館を回り、自分で見て、感じて得られる学びが沢山ありました。レクチャーで事前に担当の教授が概要を話してくださっていたので、美術館ではレクチャーとのつながりを見つけ出しながら発展的な学びを得ることが出来ていました。3週間の集大成には3人程度のグループに分かれて、アートの歴史に関するトピックについてのプレゼンテーションを行いました。3週間という短い間ではありましたが、毎日毎日非常に充実したタイムスケジュールとなっていたため、実りある時間を過ごしていました。Block2ではAcademic skills in Englishというクラスを取りました。このクラスでは、上記と同様3週間を通して英語の4技能を鍛えることを行っていました。ReadingとWritingのパートでは、英文を沢山読み込んだり、ライティングにおけるアカデミックな書き方について学びました。SpeakingとListeningでは、クラスメイトと議論をしたり、聞きながらノートを取ることを行いました。こういったアカデミックな英語4技能を現地の教授の方々から教えていただく機会は大変貴重なことがと日々痛感していました。Block1,2どちらも、クラスメイト構成としては約20人くらいで、教授は2人という形でした。授業のレベルは、個人個人感じることに差はあると思いますが、私個人的には凄く難易度が高いというわけではなかったように感じます。課題の量も多くなく、現地の授業を楽しみながら毎日授業を受けることが出来ていました。
- ・ 【Block1 : Art in London】
この授業では啓蒙主義～ポストモダン主義までの美術史を主に学びます。ただ初回の授業で教授が“We are going to learn A history of Art. Not THE history of Art”とおっしゃっていたように、通説の美術史を学ぶこと自体よりも、その「アートの歴史」から見落とされた芸術たち（西洋以外の美術、女流画家、美術界における問題作など）を取り上げ、さまざまな視点から美術を見た上で「ではあなたなりのアートの歴史とは何か」と問われるような講義内容でした。そのため授業内ではディスカッションが多く、生徒が意見を言いやすい環境を教授も整えてくださっていました。また週に1,2度ほど授業内容とリンクして美術館を訪問する日が設定されていたため、ロンドンの主要な美術館はほとんど授業内で訪れることが出来ました。
以下が授業内で訪問した美術館です：
 - The British Museum
 - The National Gallery
 - The National Portrait Gallery
 - The John Soan's Museum
 - The Victoria & Albert Museum

- The Cautald Gallery

クラスの国籍の内訳は

- 日本：13人（うちJCulPer 9人）
 - 韓国：3人
 - 中国：1人
 - オランダ：1人
- でした。

【Block2 : Environment】

この授業では環境と政治、二つの面から世界状況を読み解き、自然保護と経済成長の共存方法を考えていくのが主でした。この授業では様々な経済・環境に関する政策や専門用語を学んだ上でそれらの問題点や各個人の意見をチームで話し合う時間が多かったです。この授業の課外活動は1度のみで、Wet Land という主に鳥を育てている保護地区を訪れました。

クラスの国籍の内訳は

- 日本：11人（うちJCulPer 5人）
- パキスタン：1人

でした。Block2からは日本の夏休みと日程が被るため、特に日本人が多い印象でした。

どのブロックも宿題はほとんどなく、最終日に1人あたり4分のグループプレゼン（お題はブロックのテーマに沿っていけばなんでも可）を行うのみでした。

教授やサマーセッションに携わっておられる方々はとてもフレンドリーで、困ったことがあれば迅速にサポートしてくださいました。

- ・ 授業はそこまで難しくなく、日本人が多めで授業以外で英語を使うのが難しい。
- ・ 母国語でない環境に身を置くことで、これまで当たり前だと思っていた価値観や考え方を捉え直すことができました。

留学生生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ とにかく宿舎に問題あり。それ以外は基本的に何とかなる。水回りに関しては壁が薄い為夜中他の人のシャワーやトイレの音で目が覚めるほど騒音だったり、シャワーの水が止まらなかったり逆にでなかったり、オフィスに行っても解決はしなかった。キッチンに関しては異臭が酷く冷凍庫も凍ってしまっていて開けなかったり、取手付きの鍋しかなくフライパンがなかった。（フライパンに関してはここのフラットだけみたいだったが）また途中までは涼しかったが暑くなり部屋が30℃も行くことがあったが冷房器具は一切ない為苦勞する。ちなみに寒かった時コンロをつけたら焦げ臭く耐えきれないほどだった。洗濯機が途中で壊れて脱水ができなかったりと問題もあったが私たちが帰る前に新しい機械になったので多分大丈夫だと思う。
- ・ 寮での生活は良くなかったです。各部屋にある浴室の設備が非常に悪かったうえ、必要最低限のものしか準備されておらず、快適ではありませんでした。また自分たちで自炊する必要があるのですが、調理道具を除き調味料を含む食材はすべて各自購入しなければならずとても不便に感じました。・ロンドンの天気は頻繁にコロコロと変わるため、温度調節するのが難しかったです。年によっては暑い寒いあると思いますが、季節が夏でもカラッと暑さで日本のような気候ではないので、羽織れるものあるいは長袖類を複数枚持っていくほうがいいと思います。
- ・ 物価がとても高かったが、日本と比べて気候は涼しくて過ごしやすかった。個人的に治安は良かったが人によってそれは異なった。
- ・ 宿舎は衛生面で十分とは言えませんでした。シャワーを仕切る壁がなかったり、キッチンに前使っていた人のゴミが放置されていたりと衛生面が気になる生徒には少し向かないかもしれません。しかし、それぞれの宿舎に入るためには必ず鍵が必要とされていたため、セキュリティ面では助かりました。また、寮にはウォーターサーバーが設置されていたため、毎日水を買う必要がなくとても便利でした。寮と大学周辺は治安がそこまで悪いと感じることはありませんでしたが、暗くなってからの一人行動はやはり控えた方がよいと思いました。気候は半袖に上着（パーカーなど）が一番過ごしやすかったです。雨の日が多く肌寒く感じる日が多かったため、上着は必須だと思います。
- ・ 私が行った留学先は、JCULPの生徒が特に多かったため、寂しかったり、慣れない環境で孤独を感じて鬱になったりしたことはなかった。宿舎は、個室であることはとても良かったと思うが、結構汚くて、共用施設はぼろいところも多くて少しストレスだった。食事は、昼は、学校の前にフリーのミールを出してくれる人たちがきて、それを主に食べていたため、食費が節約できて良かった。物価は高かったが、スーパーで食材を買って自炊をするとそんなにか刈らなかつた。Wifiは普通につながるが、学校のWifiのつなぎ方が結構複雑で、トラブルもあったため苦勞した。

- 寮は他の方も言及すると思いますが、良い環境とはいえません。シャワーは5秒ごとに押さなければいけないし、水圧も弱く動かさません。トイレとシャワーの区切りがカーテンしかないので、専用のサンダルを持っていくのはマストです。シャワーとトイレを除けば楽しい生活を送れると思います。フラットメイトと友達になるケースもありますし、wifi が強力でインターネットアクセスは素晴らしいと思います。気候は日本の夏よりも涼しいくらいなので、暑がりの人は日本と同じ服を持って行っても問題ではないです。軽い上着は2着持っていくことをオススメします。治安は予想よりも良かったです。ホームレスやゴミは非常に目立ちますが、スリや物乞いは少なくとも私は経験していません。9時まで日が沈まないで、それまでなら観光に行っていました。しかし、9時以降は危険なのでミュージカルの帰りはバスに乗って帰宅していました。
- 寮のインターネットは強く安定していますが、水周りの設備は古めです。交通は交通費が高めなので歩くことが多かったですが、景色を楽しみつつ歩けば苦痛ではありません。余暇はオペラやミュージカル、美術館に行くことが多かったです。
- 寮は汚い。替えの食器洗いスポンジもくれないので6週間同じのを使わないといけな。お風呂とトイレの境目がないのでバスサンダルが必要。大学までもやや遠い。気候は基本寒く長袖と羽織が必要。治安は日が落ちなければ悪くない、しかしホームレスがたくさんいる。
- 学生寮は大学から徒歩20分ほどのところに位置していて、毎日歩いて登下校していました。部屋にトイレ、シャワーが完備されていて便利でした。気候は日本に比べて涼しく、長袖で生活していました。突然雨が降り出すことが多く、そこが難点でした。食事は、毎朝と夜は自炊をしてお昼ご飯はスーパーや大学の学食で買ったり、作って持参したりしていました。物価が高いこともあり、なるべく自炊するように心がけていました。治安は自分で十分に注意を払い、電車の中や人ごみの中では必ずカバンから目を離さず行動していました。Wi-fi は学生寮と大学に完備されていたため、困ることなく利用できていました。移動中やWi-fi が完備されていない場所ではモバイル通信を使っていました。最後に休日の過ごし方としては、ロンドンの市内を観光したり、美術館を回ったり、充実した時間を過ごしていました。
- <気温/服装> ・23年のロンドンには近年稀に見る気温の低さだったようで、私はほとんど長袖を着て過ごしていました。日本の季節感でいうと11月ごろくらいでしょうか。特に朝は冷え込むため、どれだけ天気の良い日でも朝は上着が必須でした。しかし現地に住む知り合いに尋ねると、私たちの留学が始まる1か月前の6月はとても暑かったようなので、どの季節感の服を持っていくべきかは渡英直前の気温などを確認して決めることをおすすめします。全体的にロンドンの夏は湿気がほとんどなく、とても過ごしやすかったです。 ・ロンドンの気温はとっても変わりやすいことで有名です。10分前まで快晴だったのに今は大雨、なんてこともザラにあります。なので常にカバンには折り畳み傘が必須でした。大雨の日は日本の梅雨レベルの雨が降るのでスーツケースに余裕がある方はレインブーツを持っていると安心かもしれません。 <日没> ・ロンドンの夏は日没がとても遅く、夜9時過ぎまでは明るいのです。夜10時になるとすっかり夜になっていました。 <食べ物> ・よくロンドンのご飯はまずい、と言われるそうですが、私個人の感想としては全くそんなことはなかったです。ただ外食をすると1回20ポンド(留学当時のレートで約3700円)とだいぶ取られるので、余裕がある日は寮で自炊をしていました。自炊をすると外食の1/5くらいの食費に抑えることができました。 ・お昼は大学内の購買でサンドイッチを買うか、ボランティア団体のフリーミール(ベジタリアンカレーかパスタのメインの他に果物やパンをもらうことができます、フリーミールなので無料で配っていただいていたのですが、あまりにも気が引けるので毎回募金をしていました)を食べてしのいでいました。 <寮の設備> ・寮の環境は正直整っているとはいいがたかったです。建物は全体的に古く、部屋のカーペットやイスなどもシミや汚れが目立ちました。 ・各部屋にはベッド(シーツ、掛け布団、枕付き)、勉強机、イス、クローゼットがあります。全体的に小汚いです。2週間経ったら慣れますが。 ・シャワー室も部屋内にあるのですが、洗面台、トイレと一続きになっていたためシャワーを浴びるとトイレや洗面台も水浸しになる設計でした。シャワーヘッドが天井に取り付けられているタイプな上、お湯がボタンを押した後数秒しか出ないため、シャワーを浴びるのは毎回苦労しました。 ・WiFi はとても早く、ネット回線で不便を被ることはありませんでした。 ・洗濯は寮内に1か所あるランドリールームを使います。洗濯機+乾燥機で毎回4.5ポンドも取られるので、ほとんどの生徒は友達とシェアして使っていました。 <治安> ・ロンドンの治安は私が思っていたよりずっと良かったです。特に寮の最寄駅であるKings Cross St Pancras 駅は国際列車の発着所のため常に明るく人通りもあり、夜中に出歩いてもそこまで怖い思いはしませんでした。また、私が知る範囲ではスリの被害にあった生徒もいませんでした。 ・ただ1つ注意するとすればホームレスの方々でしょうか。ロンドンには至る所で路上で生活されている方がいます。ほとんどの方が道端に座ってお金を求められています。ごくたまに通行者に実際に声をかけてくる方がいます。ただ他の地域と比べて断つても粘ってくる人は少なかったです。 <交通> ・最短で移動するならお馴染みTube(地下鉄)を使います。特に最寄駅はPicadilly Line という日本でいう山手線のような、主要駅によく停まる線が通っていたので、主要な駅には大体1本で行けました。料金は日本と異なり一律なので、目的地が遠ければ遠いほどお得になります。 ・時間はかかりますがTubeより安いのがバス。こちらも一律料金ですがTubeの半額ほどの値段で利用できます。 <レジャー> ・

大学の徒歩圏内にはミュージカル街（West End）やショッピング街（Soho, Covent Garden）があったため、放課後（基本授業は午後 3,4 時に終わります）はそこで遊ぶことが多かったです。ミュージカルのチケット購入で案外学割が効かなかったのが驚きでした。ライオンキングは学割あります。・土日はオックスフォードやグリニッジなど、放課後の限られた時間では行きづらい場所に出向いていました。中にはツアーを予約してカンタベリーやストーンヘッジ、ウィンザー城などに行く人もいました。・The National Gallery および The National Portrait Gallery は普段夜 18 時まで営業のところが金曜日のみ夜 9 時まで営業しています。どちらも隣同士の場所にあるので時間を有効活用したい方は金曜日が狙い目。・先ほども書いたように最寄り駅から国際列車が出発するのでパリ、アムステルダム、ブリュッセル辺りには最寄から列車一本で移動することができます。・ヒースロー国際空港から最寄駅までも直通列車が通っているので空港の行き来も比較的楽です。 <その他> ・ロンドンには主に 3 つのスーパーマーケットブランド（TESCO、Sainsbury's、M&S）があるのですが、左から順番に値段が安いようです。日本でいうところのライフ、イトーヨーカドー、成城石井、のイメージ。寮の近くにあるのは Sainsbury's です。・寮の近くには Tian Tian Market というアジアスーパーがあるので、そこでお米や納豆、インスタントラーメンや冷凍食品を買うことができます。私たちが滞在していたときには寮に炊飯器を持っていらした方がいたので、その方に炊飯器をお借りしてお米を炊いていました。・ロンドンはフルーツがとっても安いのでビタミンを手っ取り早く取りたい方はフルーツを食べておけば大丈夫です。

- ・ 学生寮が少し不便、汚い
- ・ 寮のシャワーや水回りの設備が少し不便でした。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ メディアの授業で撮影の仕方の基礎だけでなく、日本における NHK の存在など多くの観点から見ることでできたことを活かし、今後の情報社会でどう活かすか考えていきたい。
- ・ クラスメイトが日本人ばかりで、学校外の時間に英語を使う機会はあまり多くありませんでしたが、英語を話すことに対する抵抗はなくなりました。現地の大学で勉強をするだけでなく、実際に異国の地で生活することで、生活力かつ実用的な英語を身につけることができたという面で、非常に良い経験になったと思います。今後はクラスメイトのみならずネイティブの人と英語で話す機会を探して、自分の英語力を維持・向上できるよう励んでいきたいです。また授業内容やディスカッションで扱った内容を通して、興味を持てる分野が広がったので、今後の学びや研究に活かしていけたらと思います。
- ・ 寮生活での人との共同生活などの点ですごく苦勞をしたので、人間の関わり方についてこれからの生活生きていくと思います。
- ・ 美術史や環境問題などに関する専門的な知識を得ることができたため、日本文化の特性や社会状況を考察する際にイギリスをはじめとした世界の文化や社会問題と比較するという手法を使っていきたいと感じました。特に、美術史に関しては講義の中で西洋の美術と日本、アジアの美術の共通点や関係性について研究する機会があったため、今後発展させ、深めていきたいと考えています。
- ・ 英語での生活で身についた生活英語だけでなく、授業を通して学ぶことができたアートに対する知識や教養、リテラチャーに対する知識や教養を生かして、自分の創作活動や学部で勉強で生かしていきたい。そして、そのような教養や知識だけでなく、実際外国で生活をしてみて感じたことや知ったことは、より広い視野をもたらすことができたため、それを生かしてこれからの OS の生徒やいろんな人々と触れ合うときに、偏見のない態度で、楽しく付き合っていきたい。
- ・ World literature のクラスでは、移民やアフリカ系の人々の物語を読むことの大切さについて学び、Media to introduction ではメディアの「透明性」「客観的に報道することの難しさ」を学びました。どちらも私が JCulP で研究したい「日本と世界の英雄像」にリンクしているので、視点を増やして勉強を続けるモチベーションになりました。
- ・ 授業内容だけでなく、日本では見られないオペラやミュージカル、多くの美術作品の数々の美学を吸収し、自分の美学を形成していきたいと思います。
- ・ 自分の興味の幅を広げられ、文化構想学部以外の授業を受けたいと思うきっかけになった。
- ・ 培った英語のスキルはもちろん、芸術の歴史やロンドンの歴史、そして出会った多様な価値観を土台にし、今後の学生生活においてより広い視点をもって学業に臨んでいきたいと思います。特に Jculp の授業のなかでは、英語の視点から日本を捉え直すという点で、現地の授業で芸術にかかわらず日本を学び直す機会が沢山あったので、そこで得た学びや視点を今後の授業の中で大いに生かしていきたいと思います。
- ・ 今回の Art の授業を通してより美術に興味を持ったので、帰国した現在個人的に美術史の勉強を始めています。また日本の美術展にも頻りに足を運ぶようになりました。そのときに Art のクラスで学んだ知識やロンドンの美術館で見た他の絵画を思い出して、より学習の意欲を高めることができます。この興味と学習意欲を活かしてこれからも美術の勉強を続けていきたいです。海外で単体行動を取るの初めてのことでしたが、その経験から海外に行くこと自体や自分の英語力に

対する不安が少し解消されたように思います。自分の英語が英語圏でも問題なく伝わるのが分かった今、帰国後はより意欲的に英語でコミュニケーションを取りたいです。

- ・ 学業面だけでなく、生活面でも自立できた。学業面では、日本では学べないことにたくさん触れるきっかけになった。
- ・ ディスカッションの際に積極的に自分の意見を発言したり、様々な価値観に目を向けていきたいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ 暑さと寒さは両方できるように準備しておいてください。イギリスへ行きたいという強い意志がある場合はオススメですが、英語力を伸ばしに行きたいという意味ではあまりオススメできません。場所自体はかなり良く、基本的な有名なロンドンの観光地へバスで一本で行けます。治安も聞いていたほどは悪くありません。
- ・ 6週間という短い期間ではありますが、英語力の向上以外にも新たな力を身につける良い機会になります。英語のスキルを伸ばしながらも現地での生活を楽しんで留学を終えられるといいと思います。
- ・ 日本人、アジア人が多いところに行くと日本語だけ使ってしまう環境になりやすいから考えて選んだ方がいいと思う。
- ・ とにかく自分から行動することをおすすめします。なぜなら、プログラムの環境が全て万全だというわけではないからです。英語を積極的に話す機会を作ることや、自分からロンドンについて調べ、実際にその地に行くなど留学生活の充実度は個人の行動力にかかっています。また、準備はとにかく余裕をもってしてください。私の周りにも気候についてあまり知らずにきたため、夏服しか持っていない子や、必要以上にロンドンで日用品を買うことになってしまった人が何人かいました。ロンドンは物価が高いため、日本から持っていける水筒や上着、傘などは事前に確認しておくこととスムーズに生活することができると思います。しかし、講義の内容はとても面白く、教授も常にわかりやすさを心がけてくださる方々でした。普段できない経験がたくさんできるため、とても楽しい留学生活になると思います！がんばれ！
- ・ 授業はフィールドワークやディスカッションが多くて楽しいです。そして、最後に最終プレゼンテーションがあるだけで、残りは楽しみながらできる学習のみで、宿題も多くないです。しかし、6週間しかないのに、自分で積極的に英語を話さないといくと英語の伸びは遅いと思います。そして、意外とキャンパスと宿舎が古いです。しかし、どちらも結構繁華街にあるので周りは結構賑やかで、店も多いです。タオルとトイレトペーパーは週に1回変えてくれるので、持っていかなくて大丈夫です。そして、一回のレジデンスのところの水をくめるところがあります。学校でも水をくめるところが建物内にありますので、スーパーで水を買うと高いので、水筒を持っていく方がいいと思います。イギリスのスーパーは主に Sainsbury's Local、Tesco、M&S などがありますが、宿舎からは少し歩いて Sainsbury's Local と Tesco が近いです。しかし、学校からいくとそんなに遠くないところに、Lidl というスーパーがあります。そこは他と比べて少し安かったので、そこを利用してもいいと思います。洗濯はお金がかかり、アプリでチャージしなければならないです。そして、イギリスはカードだけ使えるというところも結構多かったのですが、現金よりは、手数料があまりかからない海外用のカードを用意していくのもいいと思います。授業の時、プリントが結構配られるので、クリアファイルを用意していくのもいいと思います。
- ・ サマーセッションの時期は本来所属している生徒にとっては休みであり、留学生（特にアジア）をメインにしたプログラムなので、難しいのでは？と身構える必要はないと思います。（ただ、英語力の向上はあまり期待しない方がよいです。特に SOAS だと授業は英語、それ以外は日本語と、JCulP にいた時と環境があまり変わりません）ただ、せっかく海外にいるので、留学先の図書館を利用してみたり、放課後に観光名所に行って英語に触れる機会を増やすことをオススメします。放課後に寮に直行するより、博物館やカフェでもいいから外に出る日々を送ると、あっという間に時は過ぎますし、楽しいです。
- ・ 私は Art と Literature の授業を取りましたが、両方とも殆ど課題はなく授業内容も JCulp の授業を受けているなら何も問題は無いと思います。Final Project は2つともプレゼンテーションでした。Art の授業は課外活動として美術館にたくさん行けるので、美術に少しでも興味があればぜひ取ることをお勧めします。

授業時間もそこまで長くなく課題も少ないので、私はよく美術館とオペラハウスに行っていました。大学から徒歩5分程度で大英博物館、徒歩20分程度で National Gallery やロイヤル・オペラ・ハウス、多くの劇場の集まる区画に行けます。（座席にもよりますが）どれも日本とは比にならないくらい安価なので、興味がなくても経験として行ってみることをお勧めします。美術館もスケッチブックとペンを持って絵や彫刻を模写したり、遠巻きにでもオペラハウスでバレエやオペラを観ることは豊かな経験でした。私は週6くらいの頻度で美術館に行っていました、それでも全く飽きませんでした。

寮生活についてですが、私を含む全員の JCulp 生は Dinwiddy House という寮に住んでいました。大学までは徒歩20分程度で、一人一部屋（シャワートイレ付き）キッチンが共用です。24h 高速 WiFi が通っていて、インターネットの面では心配なくて問題ないと思います。シャワーの設備はかなり古めで

慣れるまで時間がかかります。ただお部屋が汚れてしまうとストレスになるので、絶対にコロコロを持っていくといいかもしれません。

ロンドン是他国までのアクセスも良く、EU の名残なのかヨーロッパ圏内の移動は比較的しやすいです。私もベルギーに週末旅行に行きました。私はロンドン市内から出ませんでしたが、イギリス国内で旅行することもいいと思います。

- 土日を使って海外旅行に行くと、誰もスリに合うことはなかったが、財布は二つ必要だと思う。ネットで決済する時に使えないカードだった時用に二枚持っていくのがいいと思う。基本カード文化なので現金はそんなに必要ではないと思う。
- Summer Session は短期だからこそ、一日一日を大切に計画性をもって過ごすことが大切だと思います。その土地の歴史や観光地、芸術作品を前もって知っておくことで、より有意義な留学生活が送れると思います。ただ、治安が悪いため、夜遅くのお出かけや気のゆるみには気を付けてください。外にいるときは常に注意を払って、狙われないようにすることが第一に大切です。そこも含め、全く新しい環境に飛び込むことで、全く新しい価値観であったり、視点に出会えます。貴重な summer session を楽しんでください！
- ほとんどの注意点は上記に記入済みなので…。私は現地大学内での学びと同じくらいの授業外での経験は留学生にとって大切な学びの機会だと思っています。ただ街へ出て買い物をしたり、美術館で日本ではまず見られない展示品を見たり…とにかく授業外の時間も外に出て色々な場所に行っておくたくさんの人と話してください。その経験があなたの自信につながると信じています！
- 他人や友人と生活することで自分自身を見つめ直し、自分が変わると思います。学業面はもちろんですが、人として成長できます。イギリスはカード支払いが多いため、一個以上は持っていた方がいい。
- 現地でたくさん他国の学生とコミュニケーションをとると世界が広がります。

Summer Session の手続き方法（早稲田大学・留学先）について、気になった点などをご記入ください。

- 大学の手続きは全部自分でやらなきゃいけないくて、私は科目登録に苦戦しました。UCLA は他の留学先と違って、自分で科目登録ができるのがいいところですが、興味がある授業が時間割的に取れなかったり、早稲田の方から設定されている取得単位数を満たすものでなかったため、結果自分が興味のないイタリア語の授業もとっていました。
また、VISA の手続きも全て1から自分でやらなくてはいけないくて、条件によっては大使館に面接を受けに行かなくてはならないものもありました。私は以前別の visa での渡米歴があったため全てオンラインで visa 手続きが済みましたが、数日かかりました。

当該大学・プログラムを希望した理由をご記入ください。

- Yale やイギリスの留学先に比べて、UCLA では英語“を”学ぶのではなく英語“で”専門的な科目を学ぶことができるのが魅力的で選びました。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- 私は lower division(3 つあるレベルの中の 1 番下)の授業を 3 つ取っていました。introduction to film という授業では、一回の授業が 4 時間で、前半映画を見て後半が講義という形で、毎週テストとエッセイの課題があり、中間期末課題もありました。課題はそれなりにありますが、授業を受ける教室が映画館のようになっていてすごく専門的なことを学びました。
Typography というデザインの授業では、自分の好きな曲のジャケットをデザインするという内容で、パソコンを使ったデザインの仕方など 1 から学べて、やっていて楽しかったです。この授業は特にテストなどもなく、クラスが 13 人程度だったのでみんなで夜寮のテラスで作業したりご飯食べに行ったりすごく仲良くなれました。
イタリア語の授業もとっていたのですが、初級レベルにしては難しく、ついて行くのが大変でした。生徒も同年代はほぼいなくてみんな社会人とかでした。
科目登録の際に相談できる人がいなかったのが後悔です。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- 私が泊まったのは Olympic Hall という 2021 年にできたばかりの寮だったので、シャワートイレ含め海外とは思えないほど綺麗でした。部屋は 3 人部屋ですが、ベッドやデスクの配置的に 1 人の時間はちゃんと持てます。気候はすごく寒くて、ずっとパーカー羽織ってました。夜がほんとに寒いです。食堂は三つあって、それぞれ毎日メニューが違うので、飽きませんでした。治安も悪くはなくて、週末とかは友達と Uber で移動して遠くまで行ってました。ただ、地下鉄はちょっと暗くて怖そうな人がいっぱいいたのでオススメしないです。基本的には早稲田の方からはあまり色々教えてくれないので、現地で分からないことはとにかく周りの人にききまくってました。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- 私は今回 jculp 生の中で 1 人だったので、サバイバル能力が身につきました。向こうに日本人もほぼいなく、(6 週間で見つけたの 7 人程度)ほんとにずっと英語でした。ほんとに良い機会だったとおもいます。中国人や韓国人、ベトナム人の友達ができ、今でも連絡取り合ってます。ほんとに良い友達ができ、海外の大学の大変さを体験できたので、今後早稲田の授業でもエッセイやプレゼン方法など、UCLA で学んだことを活かしていきたいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- UCLA は都心に近く、ハリウッドやユニバーサルスタジオなどの観光地が車 30 分くらいで行けるので週末が楽しいです。勉強も大事ですがせっかく留学に行くなら楽しむところは全力で楽しんでください！

Summer Session の手続き方法（早稲田大学・留学先）について、気になった点などをご記入ください。

- ・ Online register をする際に、全項目が緑にならないといけないうところが、大学側が入金を確認してから緑になる項目があり、すぐに全部緑にならないということが起きた。ちゃんと手続きが完了しているかが不明確で不安になることもあった。
- ・ パスポートやビザのドキュメントのアップロードがややこしかった。

当該大学・プログラムを希望した理由をご記入ください。

- ・ 立地・景色で選んだ。南の方で海に近く、程よく田舎で住みやすいと思った。電車で 10 分で行けるブライトンはビーチがあり、街並みも可愛くて癒された。また、ロンドンに行こうと思えば 30 分ほどで行くことができるため退屈することもないかなと判断した。
- ・ 必要な成績やスコアの基準が他の大学に比べて高く、質の高い授業が受けられると思ったため。ビジネスについて興味があったため。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 授業レベルに関しては、毎回の授業で次の授業に向けたリーディングの授業が出されるが、その量が多く、クラスメイトのネイティブでも内容がわからないほど難しいものもあった。先生については、質問をしたらすべての先生が優しく丁寧に教えてくれた。クラスメイトは Module1 はアメリカから来た人が多かったが、Module2 ではアジアから来た人が増えた。
- ・ Module 1: Business & Management
内容：ビジネスの基礎を学び、シミュレーションアプリを用いてグループごとに売上を競う。
形式：前半（1 時間）は教授のレクチャー、後半（2 時間）はグループワーク/ワークショップ
難易度：短期間で多くのことを学ぶため最初は大変であったが、教授のスライドが分かりやすくやる事も明確であったため難なくついていくことが出来た。
課題：週に 2 回ビジネスシミュレーションを完成させる。3 週目にある選択式テスト（50 問）に備えて勉強する。最終日のグループプレゼンの準備をする。
プレゼン：シミュレーション内での役割を決め、それに沿ってプレゼンをする。3~4 人のグループで進めるため、沢山話し合い積極的に発言した。
教授：明るく、気さくに話しかけてくれた。普段からビジネスの担当をされていた。
Module 2: Gender & Sexual Dissidence
内容：文力を参考にして Gender にまつわる歴史や成り立ちを主に文献を用いて分析する。
形式：毎日 10~30 ページの文章を読み（宿題）。それについてのテーマに沿ってグループ、クラス内で討論する。
難易度：一般的にあまり触れない分野まで扱ったため、ついていくのに苦労した。
読解力と発言力と書く力が求められるため、英語力があるのは前提で進められる。
課題：1250 ワードのエッセイを 2 つ書いて提出する。自分でキーワードやトピックを選ぶエッセイと文献の考察エッセイ
担当：教授ではなく、博士のチューター 2 人が担当であった。サセックス大学で Gender 学を専攻にしていたそうだった。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 寮は綺麗で快適だった。しかし、食事面で不便に感じることはあった。買い出しにはブライトンに行かなければならず、特に帰り路は重い荷物をもって急な坂を上らないといけなくて体力的にきつかった。また、共用キッチンで毎夜、同じフロアの人が違うフロアの友達を呼んでキッチンで占領していたためストレスだった。人がいない時間を気にしながらキッチンを使う羽目になったのは嫌だった。
- ・ 宿舎は比較的新しく綺麗だった。寮は 1 人部屋でシャワーやトイレも付いている。キッチンは 4,5 人で共有。食事は自炊で食材は近くのコープで買うか、週末にブライトンへ電車で行き安いスーパー（ALDI）で買い溜めをしていた。気候は海側のためか思ったより寒く教室も冷えるため、長袖長ズボンパーカーは必須。半袖を着る機会の方が少なかったです。治安は比較的良く、街の人も優しい印象。人種差別も特に感じなかった。交通は電車かバスを使ってました。Trainline というアプリがオススメです。Wifi は寮やキャンパス内、電車内、レストランにもあるので外出時を除いてあまりギガは消費しなかった。

大学が広大な国立公園の中にあり、自然豊かで友人と授業前に毎日朝の散歩をしてカモメやリスやウサギを観察するのが楽しかった。平日は午前中の授業が終わったら午後 student center に集まって課題をやり、毎週末はブライトンやロンドンに出かけて楽しんでた。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 授業を通して、ゲームや文学作品におけるいろいろな描写について考察した。この経験を通して、なにかを媒体を通してどのように表現・描写することができるのかという関心がより高まった。
- ・ 自分に興味のある学問の幅が広がり、生の英語に触れながら様々な国から来た学生達と交流し、良い経験となった。この経験を活かし、秋から JCulP に入学する学生とも積極的に交流をし、普段の授業でも学んできたことを応用したり教えあったりしたいと考えている。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ インスタントの焼きそばは買えたが、それ以外の日本食はなかなか買えなかったので、日本食はある程度持って行った方がよいと思った。現地で友達が欲しいのなら、積極的に大学側が主催するイベントに顔を出すことが大事だと感じた。
- ・ 1 ヶ月を過ぎたあたりから日本食ロスになってくると思うので、麺つゆ、海苔、ふりかけ、お菓子などを持っていくと良いと思います！あとスリや紛失対策としては貴重品を常に肩から下げておける小さい入れ物が便利でした。

私はこの留学で沢山得られることができました！ちゃんと授業に参加して学ぶことももちろん大切ですが、沢山友達や思い出を作って6週間を有意義に過ごしてほしいなと思います！

[< Yale University / Certificate Programs for International Students · The Intensive English Program >](#)

Summer Session の手続き方法（早稲田大学・留学先）について、気になった点などをご記入ください。

- ・ どのような授業をとるのか

当該大学・プログラムを希望した理由をご記入ください。

- ・ イェール大学に行ける機会はなかなかないから

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ とても楽しく過ごせた。しかし寮の部屋に冷房がなく暑かった。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ Wifi 環境は非常に整っていた

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 将来何をしたいのかを再認識できる機会だった

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・ イェール大学に行く生徒は扇風機を持っていくといい

Summer Session の手続き方法（早稲田大学・留学先）について、気になった点などをご記入ください。

- ・ 自分が個人申請だったということもあり、ビザ申請から学校のアプリケーションまですべて自分で行うことがすごく挑戦でした。ただ渡航にあたっての心配事をどうしてもエキスパートに相談したい時に、留学センターに駆け込んだことはメンタル的に非常に大きな支えになりました。
私はこれまで一切の留学経験がなかったので summer session 手続きだけでも最初何をしたらいいかもまったくわからない状況でした。もし改善していただけるのであれば、学校によって手続きの方法や内容は異なると思いますが、大体の流れ（ビザ取得から大学のアプリケーション）を個人申請者にも提示してあげてほしいと思います。そうすれば、少しでも個人申請者の不安は拭えますし、生徒たちが自由な選択をしやすくなると思います。

当該大学・プログラムを希望した理由をご記入ください。

- ・ 私は最初、留学先の候補としてヨーロッパ（特にイギリス）かボストンという地理的な候補がありました。理由は主に治安の良さです。ボストンには複数の有名校がありますが、その中でもこの度の目的である英語力向上にフォーカスしているサマースクールがあるのは調べたところ Boston University だけでした。Boston University で私が在籍した CELOP というプログラムでは多種多様な文化的背景を持つ生徒たちがよりアカデミックな英語を学びに来ています。英語学習、信用のおける大学、そして多様な生徒たちとの交流、というこの三つが大きな理由です。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 私がとっている授業は三つ、Reading and Writing, Speaking and Listening, Business Communications です。これらの授業はすべて事前に受ける versant test（オンラインのタイピング・スピーキングテスト、もしくは TOEIC・IELTS のスコア）を通してレベル別に分けられます。幸い、少し発展した内容を学べるクラスに在籍できた私的には英語のクラスは申し分ない内容でした。良い教授とも出会いましたし、クラスメイトとも毎回楽しくディスカッションやディベートを繰り広げています。クラスメイトの多くはサウジアラビア、韓国、タイなどそれぞれですが、中には社会人で留学している日本人も多くなります。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 私のいる宿舎は Myles Standash Hall で Boston University の寮の中では比較的新しい所です。設備もよく、中はすごく新しくきれいです。エアコンは完備でありがたいですが、布団等の寝具はありません。Wifi は驚いたことに大学内のどこでも 100%使えます。もし体調が悪くなれば、電話で無料相談（日本語の通訳付きらしい）もできます。気候も日本と比べると天と地の差があるほど過ごしやすいです。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 今回の summer session を通して、間違いなく英語力を伸ばすことが出来ましたが、私が学びえたのはそれだけではありません。文章にして伝えるのは非常に難しいですが、この経験を通して改めて自分が日本人であることに誇りを持ってましたし、国際交流をすることの良さを実感しました。今までも日本以外の国出身の方々とお話する機会はたくさんありましたが、やはり一か月ともに過ごすことで、より広い視野を持ってたことを身をもって体感しました。summer session で体感したこの価値観や世界観の変化は今後に活かしていくかというより、今後に活かされてしまうようなものである気がします。ただ私は今後も自発的に自分の視野を広げていけるよう、進んで国際交流をしていきたいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・ 私はこの代の JCulP 生で唯一の個人申請でした。今までまったくもってビザ申請や大学のアプリケーションを自分でしたことがなかったので、英語力の面でも、抜かりがないかという面でも共に不安がありました。性格上おおざっぱなこともあり、渡航前は特に上の空という感じでした。、。ですが、今自分がよかったなと思う点は「自分のしたい自由な選択をしたこと」、「不安要素を明確にしたこと」、「すぐ相

談したこと」です。私はビザ取得で大変な思いをして、最終的に取得できたのは渡米一週間前でした。内心ガクブルでしたが、何とか今は毎日授業に楽しく参加し、お昼休みには台湾出身の友達とポルトガル出身の友達でディベート対決をしています。誰でもミスはありますので、心配であれば一つ一つ手続きをこなしていきましょう。そうすれば大丈夫です。今は個人申請にして本当に良かったと思っています。実はそのおかげで入寮二週間前に渡米をして、知り合いの家にホームステイもしちゃいました。皆さんにも自由な選択を通して、交流の幅を世界に拡大してほしいと思います。あと、カフェテリアの牛乳だけは気を付けてください。